

## 重要情報

WTOC2009 から  
の新ルール

# トレイルO NOW!

クラス分けに関する新ルール採択される IOF 総会



トレイルO委員会  
こやま たろう

来年の WTOC2009 (ハンガリー) からトレイルOのクラス分けについては新ルールが適用されることになった。

## パラリンピック・クラスも二日間競技へ チーム競技も刷新

- 1, ひとつのオープン・クラスには、障害の有無に関係無く3人の競技者が出場できる。
  - 2, ひとつのパラリンピック・クラスには、(IOFにより)認定された3人の障害を持つ競技者が出場できる。
  - 3, オープン・クラス、パラリンピック・クラスの両クラスとも、二日間競技となる。
  - 4, ひとりの競技者は、ひとつのクラスにのみエントリーができる。
  - 5, 第2日目の成績がチーム・イベントの成績として評価される。
  - 6, チーム成績は、オープン・クラス競技者2名の成績と、パラリンピック・クラス競技者2名の成績の合計により評価される。
  - 7, チーム・イベントは、新しい選手権タイトルとなりメダルが授与される。(従来はチーム・トロフィー)
- ( )は、こやま補

## オープン・クラス、Pクラスの両方に同一人は参加できない

以下に解説を加える。

- 1, および2については、従来と変更はなし。
  - 3, Pクラスについては、今までは第1日の競技結果のみの「一発勝負」でパラリンピック・チャンピオンが決定されていたが、二日間競技を希望する声が強くなり、またオープン・クラスとの公平・平等を考えるとところから、オープン・クラスと同様に二日間の合計成績でPクラス・チャンピオンを決めることになった。
- これにより第一日の成績が不本意であっても、第二日で挽回するチャンスが出来、よりスリリングな競技展開となり、Pクラス選手の参加意欲が高まることだろう。
- 4, 従来は、同一選手がオープン・クラスおよびPクラス双方にエントリーしているケースがあったが、これからは1競技者は、オープ

ン・クラスあるいはPクラスのどちらかひとつのクラスにしかエントリーできなくなる。

チームとしては、それぞれのクラスに最多3名ずつの選手をエントリーする必要がある。これにより参加する競技者数はさらに増えることと思われる。

- 5, チーム競技の成績は、従来どおり第二日の成績により評価される。
- 6, オープン・クラス上位2名とPクラス上位2名の合計成績でチーム優勝が決まる。(入賞は3位まで)各クラス上位2名(の成績)なので、それぞれのクラスへの参加が1名の場合は、チーム・メダルの対象にはならない(競技は出来る)。したがって、チーム・メダルの対象となるには、オープン・クラス、Pクラスそれぞれ2名以上のエントリーが必要となる。
- 7, 新しいチーム選手権名が付けられる予定だが、まだ決まっていない。

以上が第24回 IOF 総会で決まった内容である。なおこれらの変更提案に対して賛成は34カ国、1カ国が棄権した。これらの決定により、とくにパラリンピック・クラス参加者の競技意識が一段と高揚するものと期待できる。

## これからのWTOC開催情報

現時点で決定している開催国は以下のとおり。

- 2009 ハンガリー Miskolc  
Bulletin 2 が出ている。
- 2010 ノルウェー Trondheim
- 2011 フランス Savoie. wine が美味
- 2012 未定 (WOC はスイスで開催。  
WTOC についてはマンパワー不足を理由にスイスは辞退)
- 2013 フィンランドが立候補公算大。

## TempO、いずれ表舞台に

さて、先に本誌(2008.6月号)で詳しく紹介した新しい競技形態であるTempO(テンポ)については目下欧州をはじめ各国で試行が繰り返されており、ある程度の成果を確認した時点で取りまとめ、トレイルOの新しい種目としての採用について、きわめて近い将来 IOF 理事会に対し提案される見込みである。

その場合はWTOCでの新しい選手権種目となることは確実と思われる。

## 日本で初の TempO 大会開催

10月4日(土) 横浜 海の公園

かながわ・OL大会の中のトレイルO競技の一種目として実施予定。

興味ある方は、このチャンスをお見逃し無く体験されたい。

問合せ: <http://www.o-kanagawa.com/>

## 村越、小山に 'Pins of Honor'

総会終了後、同会場においてオリエンテーリング功労者の表彰があり "Pins of Honor" の授与式があった。

この総会終了とともに惜しまれながらその座を辞する Council (理事会)メンバーとして活躍された村越 真氏にシルバー・ピンが、また、小生小山太朗には、日本をはじめとするアジア地域におけるトレイルOの発展に功績があったとして、ブロンズ・ピンがそれぞれ IOF 会長から手渡された。

「日本人として小山さんが初めての栄誉・」と村越氏が書いておられるが、名前を呼ばれた順序がブロンズ・シルバーであったため、小山の名が最初に呼ばれただけである。

しかし、いずれにしろ二人の表彰は名誉なことであり、はからずもオリエンテーリング界における日本の存在を、あらためて世界に大きくアピールすることになったのではないかと思います。

これも皆さん方の今までの大きなご支援があったからである。有難うございました。



ピンを手にした小山(左) 村越(右)

## テクニカル・ガイドライン発行

IOF トレイルO委員会ではこのたび「エリート・トレイルOのためのテクニカル・ガイドライン」を発表した。きわめて有効な内容なので、紹介と検討を急ぎたい。

(こやま たろう)